

脳神経疾患の言語聴覚療法

言語聴覚士 松井香織



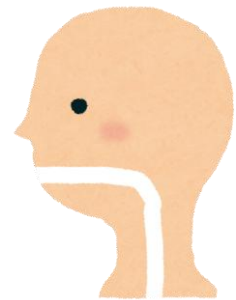
言語聴覚療法(ST)では『コミュニケーション障害』『高次脳機能障害』『摂食嚥下障害』を対象とし、生活上での問題改善を目的に訓練を行います。

『コミュニケーション障害』とは、何らかの理由により他者との意思疎通が困難な状態で、構音障害・発声障害・失語症などがあります。

リハビリでは会話や検査(構音検査、標準失語症検査など)を通して評価し機能回復のための練習をするほか、障害があっても現在の能力でコミュニケーションが図れるようにツール(コミュニケーションノートなど)の調整も行います。

『高次脳機能障害』とは、言語・認知・行為・記憶などの高度な脳の機能が障害されている状態です。脳血管障害や頭部外傷、脳腫瘍などが原因となり、損傷部位によって症状は多様です。また、個人の性格・生活スタイルによって大きく障害像が異なる為、個別性に配慮してリハビリを行います。各種認知機能検査の実施や行動観察を通して病態を把握し、機能訓練と代償法の獲得(メモリーノートなど)の両面から訓練をします。

『嚥下障害』とは、飲み込みに問題を生じることです。脳神経疾患の方では運動や間隔の麻痺によることが主ですが、意識障害や高次脳機能障害の影響を受けて生じることも多く見られます。対応が遅れると脱水や栄養不足、誤嚥性肺炎を引き起こすため、タイミングをみて原因に応じた対処が必要となります。リハビリでは、嚥下機能向上に向けた段階的な練習(嚥下反射促進、筋トレなど)を行います。併せて嚥下の機会を確保するために、その時点の能力で安全に摂取が出来るような食事形態や量、摂取方法の調整を行います。



リハビリテーションを受ける際には、事前に脳神経外科などの診察が必要になります。

リハビリテーション科診療時間

9:00~11:00

13:00~17:00(予約制)